

平成20年度第2回千葉市地域・職域連携推進協議会 議事録

1 会議の名称

平成20年度第2回千葉市地域・職域連携推進協議会

2 開催日時

平成21年3月26日（木）午後1時30分から午後3時30分

3 開催場所

千葉市美浜区幸町1-3-9

千葉市総合保健医療センター4階 会議室

4 出席者

(1) 委員

今井俊哉会長、能川浩二委員、吉原昇委員、川上洋一委員、黒畑稔委員、高山榮委員、小渋雄一郎委員、今井義成委員、阿左見葉子委員、松澤須美子委員、小林道彦委員、飯塚芳子委員、石川洋委員、井上俊宏委員

※ 欠席委員

齊藤三男副会長、小出剛久委員、許斐玲子委員

(2) 事務局

高橋秀夫健康部長、森清健康企画課長、山岸秋子健康企画課主幹、窪田和子保健所保健指導課長、加藤正隆中央保健福祉センター健康課長、徳満静子若葉保健福祉センター健康課長、秋葉秀雄緑保健福祉センター健康課長、佐久間早苗美浜保健福祉センター健康課長、古屋晴子健康保険課主査、志村栄子保健指導課成人保健係長

5 議題

- (1) 健康づくりと健康診査等に関するアンケート調査結果について
- (2) 平成20年度実施事業について
- (3) 平成21年度事業計画について
- (4) その他

6 議事の概要

冒頭、千葉市地域・職域連携推進協議会設置要綱第6条第2項の規定により、委員の半数以上の出席があるため、会議が成立している旨、事務局から説明を行った。

(1) 健康づくりと健康診査等に関するアンケート調査結果について

アンケート調査結果について、作業部会長の能川委員より報告後に、事務局より詳細を説明した。また、調査結果に基づいた今後の千葉市地域・職域連携推進協議会の取り組み方針案について事務局より説明し、承認された。

(2) 平成 20 年度実施事業について

委員の所属機関・団体が平成 20 年度に実施した事業について、各委員より資料をもとに説明し、情報の共有をした。また、事務局より千葉市の取組み等について説明を行った。

(3) 平成 21 年度事業計画について

事務局から、今年度の事業計画案について説明し、承認された。

(4) その他

特になし。

7 会議経過

(1) 健康づくりと健康診査等に関するアンケート調査結果について

アンケート調査結果について、作業部会長の能川委員より報告後に、事務局より詳細を説明した。また、調査結果に基づいた今後の千葉市地域・職域連携推進協議会の取り組み方針案について事務局より説明し、承認された。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

報告書 3 ページの表題が「回答者の年齢分布表」となっているが、年齢以外の項目もあるので適切なものに変えてはどうか。

<事務局>

わかりました。

<委員>

受診しない理由で「通知がない」という回答があった。対象者には全員に通知していると理解していたが、実際に通知がないということはあるのか。

<事務局>

市のがん検診については、節目検診以外は登録制となっているため、申し込みをしないと通知はこないことになる。特定健診は保険者によって通知の仕方が違うので、こないという回答があるのかもしれない。

<委員>

市民として一般健診、特定健診、人間ドックのどれを選択するか迷う。人間ドックを選択した場合に特定健診の受診率が下がると思うが、その点はどうか。

<事務局>

ご指摘のとおりである。受診者の健康に対する考え方の違い等もあると思うが、最終的な目標は健康の維持増進なので、公共団体サイドとしては受診率の向上により 2 次予防の充実を図りたい。

<委員>

開業医から見て、受診方法がわからない人が多い。保健センター等に行けば情報が得られるが、そこまで足を運ぶ人は限られている。対費用効果の問題もあるが、受診率向上方法として、ダイレクトメールを送る方が効果的ではないか。また、「が

ん検診を受けましょう」だけでなく、「検診を受けたことで早期がんがこのくらい見つかりました」等、なぜ受けた方がよいかを伝えることが必要ではないか。

<事務局>

貴重なご意見をありがとうございました。本市の場合毎年二百数十名のがん患者が発見されている実態を伝えながら受診の関心を高めていきたい。

<会長>

小規模事業所の受診率が低い点について、仕事を休まれると困る等の問題もあると思うが、その点の対策はどうか。

<事務局>

千葉県は子宮がん・乳がんの患者が多いため、今年度はモデル的に20歳代の子宮がん検診未受診者に再度受診勧奨を実施した。また、小規模事業所の受診率向上対策として、土日の集団検診について内部で検討中である。

(2) 平成20年度実施事業について

委員の所属機関・団体が平成20年度に実施した事業について、各委員より資料をもとに説明し、情報の共有をした。また、事務局より千葉市の取組み等について説明を行った。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

がん検診受診率19.1%というのは、どのような調査方法により算出しているのか。

がん検診の自己負担金について、補助制度を充実する方策はないか。

新世紀ちば健康プランの目標達成率76%というのは驚異的な数字だが、どのように算出しているのか。

<事務局>

受診率はがん検診の種類ごとに住民基本台帳等から分母を求めて算出している。

自己負担金については受益者負担の考え方から費用の一部を負担していただいている。金額は他都市と比較検討して決めており、財政状況を勘案し現在のところ自己負担金の免除は議論になっていない。ただし、対象によっては免除制度がある。

新世紀ちば健康プランの目標達成率については、分野別の119項目の指標の内、達成している、または達成方向にある項目が76%ということである。

<委員>

受診率については、働いている人は対象から除外しているのか。

<事務局>

はい。がん検診の目標受診率50%は、民間の受診率と千葉市の受診率を合わせた受診率であるが、民間の受診率は試算上しかわからない。19.1%は働いている人を除いた千葉市の受診率である。

<委員>

ここは地域・職域連携推進協議会だが、一番大事な職域のデータが入っていない。

これをきちんと出さなければいけないが、がん検診は定期健康診断の項目でなく法的根拠もないので、職域の受診率は出てこない。大企業は問題ないが、100人未満、特に50人未満の企業の就労者にも千葉市のサービスが届くような連携が必要だと思うので、この数字は今回のような無作為抽出による調査の方がより正確で、地域・職域の連携が進むと思う。

<委員>

節目検診について説明してほしい。費用の助成が無理なら、せめて節目検診の時は免除する等、柔軟な姿勢にすると受診率が向上するのではないか。

<事務局>

節目検診は対象者全員にその年齢になったら通知する検診である。前立腺がん検診は50歳以上5歳きざみになる男性、骨粗しょう症検診は40～70歳の5歳きざみになる女性、歯周疾患検診は40～70歳の10歳きざみになる方を対象としている。歯周疾患検診は全員に通知しているにもかかわらず受診率が10%程度と低いため、是非受診の勧奨をしていただきたい。自己負担金免除については回答できない。

(3) 平成21年度事業計画について

事務局から、平成21年度の実業計画案について説明し、承認された。

【質疑応答等発言要旨】

<委員>

作業部会のメンバーを見ると、歯周疾患検診については考えてもらえないのか。

<事務局>

事務局で議論し、皆様の意見を反映して必要なメンバーで作業部会を構成していきたい。

(4) その他

特になし。

以上のおり議事を進め、午後3時30分に閉会した。

以上